

秋田県における1才6カ月児健診の地域化に関する研究

その2. 昭和53年パイロット町村健診状況

伊藤玲子* 石塚志津子* 菊地亮也* 富樫美和子*

秋田県環境保健部

協力町村 (小坂町, 若美町, 岩城町, 西木村, 神岡町, 十文字町, 雄和町

鳥海村, 皆瀬村, 飯田川町)

1. はじめに

昨年(昭和52年)1才6カ月児健康診査(以下健診)事業開始にあたり、これを核として、秋田県の母子保健の地域化、殊に農村地域の健診システムの確立を目的にパイロット地区を選定し、3カ年計画の調査研究を開始しているが、今年は、その2年次案に基づき行なった。

パイロット町村は昨年の9町村に、新たに1町を加え10町村とした。この町村に対するわれわれの働きかけとしては、全県的な研修会のほか、健診の具体的方式確立への援助として、管轄保健所もあわせ保健婦、衛生担当者に対し研修会を行なった。

内容は、保健所と町村の健診システム確立の前段階として、①町村の主なる母子人口動態、②母子保健の概要

ならびに相談システム、③母子保健事業計画表、④健診管理台帳等の申し合わせのほか、健診の実際について、アンケート用紙、健診票の利用にあわせ、手引き書^{1,2)}絵本、積木など配布し、デモンストレーションをまじえ研修を実施した。その後、昨年の反省と相互の独自的方法の交流の場を設け意見交換を行なっている。

なお、今年は4町村に心理判定員による発達検査を、9町村に栄養指導にあわせ、食事調査を研究付加事業として実施した。

なお、本年の調査研究項目は次の如くである。

- A 地区の主なる母子人口動態
- B 健診実施状況(方式の確立)

- 1 計画
- 2 健診の流れ

表1. 主なる母子人口動態

町村名	地区帯区分	出生数	乳児死亡		周産期死亡		低体重児届出数				健診事業					
			数	主なる死因	数	主なる死因	1800未満	1800以上1999	2000以上2299	2300以上2499	乳児	1才6カ月	2才	3才	4才	
1小坂町	農山村	117	0		1	母妊娠腎(10カ月)原因不明下肢顔浮腫	0	0	2	1	6		6		6	
2若美町	平地農村	111	2	18トリソミー・VSD(4カ月) ・無脳児・マヒ(5時間)	1		1	0	3	2	12		4		4	
3岩城町	農山村	63	0		1	自然死産原因不明(40週)	0	2	1	0	6		4	1	2	1
4西木村	農山村	994	0		0		2	1	0	0	6		4		3	
5神岡町	平地農村	81	1	・心不全(1時間)	1		3	4	1	3	8		2	2	2	
6十文字町	平地農村	231	2	・呼吸不全(1日) ・先天性弱質(1日)	5	臍帯てんらく(40週) 未熟児(40週) 胎盤機能不(40週)	5	1	2	5	6		6		6	
7雄和町	農山村	126	0		0		1	0	1	0	12		8		3	
8鳥海村	農山村	121	1	・心不全呼吸不全(10時間)	1		1	1	0	2	12		4		3	
9皆瀬村	農山村	46	0		0						6		2		2	
10飯田川町	平地農村	88	2	・無脳児(10時間) ・未熟児・早産(3時間)	2		0	1	0	6	12		2	1	3	

・周産期死亡にも数えられる

(註) 岩城町, 神岡町, 皆瀬村: 昭52

* 秋田県衛生科学研究所

3 従事者状況

C 健診内容の検討

- 1 アンケート用紙（受診前質問票）の回答状況
- 2 健診部門別タイムスタディー
- 3 健診結果
- 4 栄養調査

以下、その概要についてのべる。

II. パイロット町村の状況

A. 地区の主なる母子人口動態

表1の如く、農山省経済地区帯区分分類の平地農村、農山村に属し、出生数の最高は十文字町の231人（人口15,572人）のほかは、出生150人以下の小町村で、最低が皆瀬村の46人（人口3,596人）である。乳児死亡は、表の如く先天異常がそのほとんどで、周産期死亡とともに今後のあり方を提示している。

B. 健診実施状況

1. 計画

表2に概略を示したが、会場、対象年令（1才6カ月～1才8カ月）など昨年とほぼ同様であるが、皆瀬村は1才3カ月～2才1カ月を、雄和町は乳児と混合で行なわれている。

1回の児数は最少6名、最多43名である。昨年歯科を行なわなかった岩城町は、5回の健診対象に対し、歯科のみ別に2回実施している。

すべての町村が個人通知であるが、あわせて広報、推

進員のPRも行なった所が昨年の3町に比し6町である。

2. 健診の流れ

表3の如く、受付―問診―計測―内科―歯科―保健指導、栄養指導が基本になっているが、4町村で計測を問診の前に、3町で歯科を内科の前に行なっている。鳥海村は昨年同様午前中に保健指導に関する事、午後には医師の診察としている。心理判定員による発達検査を行なった4町村は、いずれも1会場のみである。以下流れに従い特記事項についてのべる。

a. 受付

昨年無人受付とした皆瀬村は、事務担当者をおくこととし、受付のオリエンテーションを強化した。検尿実施の4町村は、1村が当日採尿、他の3町はいずれも持参の形式とし、受付でチェックしている。

b. 問診

この場で保健婦による絵本や積木で、発達確認を流れの中に入れたところが5町で、何れも心理判定員の入らない町村である。

C. 計測

体重はヘルスメーター又はかご付を用いており、分銅式はおとなしい子だけに用いているところが1町である。身長は2町村で幼児身長計、他は乳児用である。

d. 診察

発達確認検査をこの場で併用したところはない。

e. 歯科

すべての町村で実施しており、1町は前述の如く、対象児を2回に分け、健診日を別にまとめて行なっ

表2. 健診実施状況 (1)計画

町村名	実施回数	会場	受付時間	対象地区	対象年令	対象数	受診数	受診率	通知方法	医師手当	未受診者に
1 小坂町	5	母子健康センター	12:15 ~ 1:00	全町	1才7カ月~1才8カ月	88	68	77.3	個人+広報	7,000	次回呼び出し
2 若美町	4	福祉センター コミュニティセンター	1:00 ~ 1:30 12:30 ~ 1:30	全町	1才6カ月~1才8カ月	137	95	69.3	個人+広報	12,000	次回呼び出し
3 岩城町	5	中央公民館 自然休養村センター	9:00 ~ 9:30	全町	1才6カ月~1才8カ月	61	57	93.4	個人	10,000	家庭訪問
	(2)	(歯)高野歯科医院 自然休養村センター	9:30 ~ 10:00 9:00 ~ 9:30	全町	1才6カ月~1才8カ月	(63)	(54)	85.7	個人		家庭訪問
4 西木村	3	開発センター	12:00 ~ 12:30	全村	1才6カ月~1才8カ月	68	67	98.5	個人	8,000	次回呼び出し
5 神岡町	2	福祉センター	8:30 ~ 9:00 9:30 ~ 10:00	全町	1才6カ月~1才10カ月 1才6カ月~1才7カ月	50	49	98.0	個人+広報	10,000	訪問 次回呼び出し
6 十文字町	6	保健指導センター 役場	1:00 ~ 2:00	全町	1才6カ月~1才8カ月	183	173	94.5	個人+母推	7,500	次回呼び出し
7 雄和町	5	公民館 大正寺支所	12:30 ~ 2:30	全町(1) 地区別(4)	1才6カ月~1才8カ月	101	93	92.1	個人+広報	13,500	家庭訪問
8 鳥海村	4	生活改善センター	9:30 ~	全村	1才6カ月~1才8カ月	101	90	89.1	個人	10,217	家庭訪問
9 皆瀬村	1	開発センター	1:00 ~ 2:00	全村	1才3カ月~2才1カ月	28	24	85.7	個人+広報	8,000	家庭訪問
10 飯田川町	2	中央公民館	1:00 ~ 1:30	全町	1才6カ月~1才9カ月	54	50	92.6	個人	8,000	家庭訪問
計	37 (2)					888	790	89.0			

表3. 健診実施状況

(2)流れの順序

昭53

町村名	実施回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	備考
1 小坂町	5	受付	計測	問診	・プ 歯科	内科	保健 指導	栄養 指導	心理			幼児食試食
2 若美町	4	受付	▲ 問診	計測	内科	歯科	保健 指導	栄養 指導				キッチンカーでおやつ指導
3 岩城町	5	受付	※ 検尿	計測	問診	内科	心理	保健 指導	栄養 指導			歯科まとめて 2回
4 西木村	3	受付	問診	計測	内科	・プ 歯科	保健 指導	ウ歯 指導	栄養 指導	心理		
5 神岡町	2	受付	※ 検尿	計測	問診	血圧 測定	心理	歯科	内科	保健 指導		1才6カ月のしおり愛育 班の誘導(5名受持)
6 十文字町	6	受付	※ 検尿	問診	血圧 測定	計測	内科	歯科	歯みが き指導	保健 指導	栄養 指導	
7 雄和町	5	受付	問診	計測	内科	▲保健 指導	歯科	歯の 指導	栄養 指導			
8 鳥海村	4	受付	※ 検尿	計測	▲ 問診	栄養 指導	保健 指導	昼食	内科	歯科	保健 指導	
9 皆瀬村	1	受付	▲ 問診	計測	内科	歯科	栄養 指導	保健 指導	フッ素 塗布			歯ブラシプレゼント
10 飯田川町	2	受付	▲ 問診	計測	・プ 歯科	内科	保健 指導	栄養 指導				

▲(PHNが積木・絵本で確認) ・プ(ブラーグスコア) ※検尿は持参

いる。ブラーグスコア採点を実施した所が3町、フッ素塗布1村、パネルやパンフレット活用で歯科指導を行なっているのが7町村であるが、ウ歯予防や、歯みがき実地指導を健診の流れの中に入れて計画されているところが4町村である。

f. 保健指導, 栄養指導

いずれの町村も何らかの資料を用いて行なっている。なお、3町(神岡, 雄和, 若美)で、問診と保健指導で同一の対象児を受け持っており、他の7町村のうち、3町がまだ軌道にのらず4町村は従来の流れ作業形式をとっている。

栄養指導は、1町のほかは保健所から栄養士が参加している。栄養指導車とあわせたり、おやつの実習など行なったところが2町である。

3. 健診従事者状況

表4の如く、10町村の健診回数は37回で(歯科34回)、受診790名、受診率89.0%となっている。この従事者延総数は471名で、そのうち町村側が333名(70.7%)、保健所側が138名(29.3%)である。しかし、保健婦106名(53.5%)、栄養士22名(100.0%)は保健所から参加している。

医師の実数は16名で、毎回同じ医師が担当しているのが8町村、地元医3~5名が交代で2町村である。専門別では、小児科7名、内科小児科8名、全科1名であ

る。歯科医師の実数は12名で毎回同じ医師が8町、2名が交代で2町で、歯科衛生士又は助手を伴っているのが6町である。

助産婦を依頼しているところが5町村で問診, 計測, 検尿など担当している。看護婦, 母子保健推進員, 愛育班員, 元保健要員(保健婦, 看護婦, 栄養士), ホームヘルパー, 家庭相談員, 事務員など、いずれかの人々をすべての町村で臨時に雇上げを依頼しており、町村側従事者の21.3%をしめている。受付, 計測, 内科, 歯科の助手, 流れの誘導, 児の相手などを担当している。

心理判定員は、児童相談所より参加を得たのが3町村で、1町は中央より派遣を依頼し、保健所管内保健婦の研修も兼ねた。

C. 健診内容の検討

1 アンケート用紙(受診前質問票)の回答状況

今年の受診児790名に、昨年の鳥海村の一部を追加し814名(男444名, 女370名)のアンケート用紙の回答状況をみた。表5にみる如く、「いいえ」、「問題あり」が、発育・栄養(13.9%)、二語文(22.2%)、一人で食べる(12.2%)、体の形・色の心配(12.0%)、病気にかかりやすい(18.2%)、慢性疾患(11.2%)、ひきつけ(4.7%)、知能のおくれの心配(4.8%)、既往歴(7.0%)、治療中(8.1%)などに多い。また、離乳完了まだ(18.3%)、哺乳びん使用中(59.1%)、排泄のしつ

表4. 従事者状況

昭53

町 村 名	従 事 者		町 村													保 健 所				合 計	H・C 率				
	健診回数	受診数	医 師	歯 科 医 師	保 健 婦	衛 生 係 婦	助 産 婦	そ の 他							計	医 師	保 健 婦	栄 養 士	心 理 判 定 員						
								看 護 婦	歯 科 衛 生 士	歯 科 助 手	看 護 婦 雇 上 げ	推 進 員	愛 育 班 員	元 保 健 要 員								家 庭 相 談 員	ホ ー ム ヘル パー	パ ー ト (事 務)	
1 小坂町	5	92	5	5	10	5	3	8	5								4	45	15	4	2	21	66	31.8	
2 若美町	4	95	4	4	11	9			2						1			31	19	4		23	54	42.6	
3 岩城町	5 (2)	57	5	2	13	6	1									3		30	11	1	2	14	44	31.8	
4 西木村	3	67	3	3	6	3		6					17					38	6	3	1	10	48	20.8	
5 神岡町	2	49		2	6	2	3							5	2			20	2	10	1	1	14	34	41.2
6 十文字町	6	173	6	6	24	7			4	6					12			65	9			9	74	12.2	
7 雄和町	5	93	5	5	10	10			5				10					45	20	5		25	70	35.7	
8 鳥海村	4	90	3	4	7	6					5				3	3		31	2	8	1		11	42	26.2
9 皆瀬村	1	24	1	1	1	1	2									1	3	10	2	1		3	13	23.1	
10 飯田川町	2	50	2	2	4	2	2	2	2	2								18	6	2		8	26	30.8	
計	37	790	34	34	92	51	11	16	16	8	7	27	5	18	7	7	7	333	4	106	22	6	138	471	29.3
％	(34)	89.0	89.5	100.	46.5													70.7	10.5	53.5	100.	29.3			

表5. 1才6カ月アンケート解答「いいえ」「問題あり」について

調査数 814名 昭53

アンケート No	項 目	チェック 数	％	アンケート No	項 目	チェック 数	％
1	発育と栄養	113	13.9	23	慢性の病気(アレルギー)	91	11.2
3	走る	23	0.2	26	ひきつけ	38	4.7
5	なぐり書き	16	2.0	27	知能のおくれ	39	4.8
8	片言	26	3.2	29	既往歴	57	7.0
9	2語文	181	22.2	30	治療中	66	8.1
10	絵本さす	26	3.2	31	離乳未完	149	18.3
14	絵本興味	18	2.2		哺乳びんの使用	481	59.1
17	上衣をぬごうとする	46	5.7	34	排泄のしつけ	181	22.2
19	さじやフォーク	17	2.1	36	かんがつよい	198	24.3
20	1人で食べる	99	12.2	38	しらんふり	17	2.1
21	体の形・色の心配	98	12.0	39	変なくせ	80	9.8
22	病気にかかりやすい(くりかえす)	148	18.2				

けまだ(22.2%)など保健指導上の問題も多い。

地域別には、比較するには例数が少ないが、行動発達面で鳥海村にやや多い傾向がみられ、離乳や排泄のしつけなどの点では地域差がみられない。

2. 健診部門別タイムスタディー

10町村すべてで健診部門別タイムスタディーを計画したが、記載不備や中止、流れの変更などで、調査として可能なのが少なく、その中から特別の場合(兼保健婦研

修，栄養調査実施など）を除き，一般の型とみられる4町村，10会場における健診部門別タイムスタディーについてのべることとする。受付時間の巾や，流れの順序，母児の状態，スタッフ数などにより左右されるが，調査結果は表6の如くである。

10会場の受診数248名の，児1名対部門別平均実質時間は，受付1.5分，問診8.9分，計測2.0分，歯科1.4分，内

科1.9分，保健指導7.2分，栄養指導7.7分，血圧測定1.5分である。心理判定は1会場のみ15名のタイムスタディーでは8.4分となった。

受付から保健指導までの平均実質時間は22.9分で(最短9分，最長1時間08分)，これに栄養指導や血圧測定が入ると32.1分，心理判定が加わると40.5分となる。待時間の平均は47.8分で，最短16分，最長1時間25分とな

表6. 部門別タイムスタディー 4町村，10会場 受診数248名 昭53

部門		受付	問診	計測	歯科		内科		保健指導	栄養指導	血圧測定	計
スタッフ・時間												
児1名対部門別平均実質時間(分)		1.5	8.9	2.0	1.4		1.9		7.2	(7.7)	(1.5)	22.9 (32.1)
部門別スタッフ	数	12	40	21	10	18	10	18	45	対122 5	対105 3	
	内訳	事務9	看護婦3	保健婦9	保健婦6	助産婦4	事務2	医師9	衛生士3	保健婦6	保健婦9	
	スタッフ1名対受診数	20.7	6.2	11.8	24.8	13.7	24.8	13.7	5.5	24.4	35.0	
	1回の必要スタッフ(受診25名)	1.2	4.0	2.1	1	1.8	1	1.8	4.5	1.0	1.0	

児1名対健診実質時間，待時間

実質時間 (受付-保指)			待時間		
最短	最長	平均	最短	最長	平均
:09	1:08	22.9	:16	1:25	47.8

表7. 健診結果 昭53

町村名	受診数	受診率	異常者			ひきつけ	眼(斜視その他)	斜頸	心疾患疑	ヘルニア	潜伏丸	皮フ	歩行	内反足	精神・行動	こたば	その他	家庭環境	備考		
			乳児	新規	数														医師	心理	
1小坂町	92	87.6	16	3	13	3	1		1		3	1	1	2	1	3		児1	1回		
2若美町	95	69.3	9	2	7				1		3	1			1	3		児1			
3岩城町	57	63.4	8	4	4						1		1	5		1		内1	1回	検尿33	
4西木村	67	98.5	7	4	3			2	2			1				2		児1	1回		
5神岡町	49	98.0	7	4	3								1	2	2	1	1	児1	1回	検尿13	
6十文字町	173	94.5	4	4	0	1		1		1						1		内5		検尿103 糖13	
7雄和町	93	92.1	2	1	1		1		1									全1			
8鳥海村	90	89.1	0															児1 内2		検尿30	
9皆瀬村	24	85.7	1		1										1			児1			
10飯田川町	50	92.6	2	2	0		1	1										児1			
計(%)	790	89.0	56 (7.1)	24 (42.9)	32 (57.1)	4	3	2	4	3	1	7	3	3	9	5	11	1			
											444 (78.5)				14 (25.0)						

った。

4 町村, 10会場の 248 名の児を部門別のスタッフ実人員より計算して, 1 回の部門別スタッフの人員を割出すと, 1 回の平均受診人員25名に対し受付1.2名(事務), 問診4名(保健婦), 計測2.1名(保健婦, 助産婦又は助手), 内科2.8名(医師1, 保健婦又は看護婦1.8), 歯科2.8名(歯科医師1, 助手1.8), 保健指導4.5名(保健婦), 栄養指導1.0名(栄養士)となった。保健婦1名対問診分担児数は6.2名, 指導児数は5.5名である。栄養士1名で25名の受持ちは内容の上で妥当なものではなく, 一部集団指導でカバーしている。

3. 健診結果

10町村の受診児790名の健診結果は表7の如くで, チェック児56名(7.1%)である。このうち先天異常あるいはその疑いとして要追跡とされたものが44名(78.5%)である。さらにこのうち, ことは, 精神発達に関連するものが14名(25.0%)で, 発達検査を行なった町村にかたよった傾向となっている。56名のチェック児のうち, 乳児期から継続しているのが24名(42.9%), 新規が32名(57.1%)である。

検尿は4町村で335名の対象に179名(53.4%)実施している。このうち持参させた3町は実施率60.8%, 当日採尿の1村では33.3%の実施となっている。異常は, 十文字町で糖出が2名のほかは特記すべきものはない。

歯科健診の結果は, 表8の如く対象890名に対し受診児784名(88.1%)で, このうち, むし歯保有145名(18.5%)である。地区別には飯田川町が, 50名の受診で, むし歯^{ゼロ}0, 烏海村が90名中, むし歯保有3名(3.3%)が目立った。

4. 栄養調査

9 町村のそれぞれ1会場において, 母と児に対し, 栄養調査を行ない, 1才6カ月児の食事内容の実態をみた。実施人員は, 児202名(男112名, 女90名)と母親197名で, 母の平均年齢は27.4才である。

調査方法は, 面接聞きとり方式(MMR方式)³⁾で健診日の前日の全食事内容をメモさせ, 栄養士が面接し, フードモデルおよび食品現物を示し, 摂取量をチェックした。調査期間は, 6月(1村)7月(7町村), 8月(1町)である。

調査結果の主なる点は次の如くである。

a 栄養素摂取量

1日当たりを日本人栄養所要量の1才~2才の中間値と比較すると, 図1の如く, エネルギーは男女ともやや低い。たん白質, Ca, Feは充足されているが, ビタミンDは400IUに対し約1/10の摂取量である。食塩は男女とも約6gでかなり多く, 最少量は男で13.7g, 女で15.6gである。Na/Kも男4.3, 女3.4といずれも高い。コレステロールは男334mg, 女293mgで1才6カ月⁴⁾としては多い傾向と思われる。脂質エネルギー比は29%となっている。

離乳完了群123名と未完群79名を比較してみると, 大差はないが完了群が, エネルギー, たん白質, Ca, 食塩, Fe, コレステロールなど, ビタミンDを除き若干多い。

地区別にみると, 農山村の烏海村, 西木村, 皆瀬村および十文字町などが全般にやや下回っている。

b 食品群別摂取量

高居らの1才児食糧構成案⁵⁾に比べ, 摂取量の多いのは, 肉類, 大豆製品, 果実類, 油肥類などで, 乳類, 卵

表8. 歯科健診

昭53

町 村 名	対 象	受 診	率	ウ歯あり	ウ 歯 保 有 率	1名対ウ歯 保有(本)	プラーグスコア 採 点
1小坂町	105	89	84.8	19	21.3	0.21	している
2若美町	137	95	69.3	24	25.3	0.59	
3岩城町	63	54	85.7	13	24.1	0.78	
4西木村	68	67	98.5	11	16.4	0.47	している
5神岡町	50	49	98.0	8	16.3	0.45	
6十文字町	183	173	94.5	39	22.5	0.83	
7雄和町	101	93	92.1	19	20.4	0.56	
8烏海村	101	90	92.9	3	3.3	0.06	
9皆瀬村	28	24	85.7	9	37.5	0.88	フッ素塗布
10飯田川町	54	50	92.6	0	0		している
計	890	784	88.1	145	18.5		

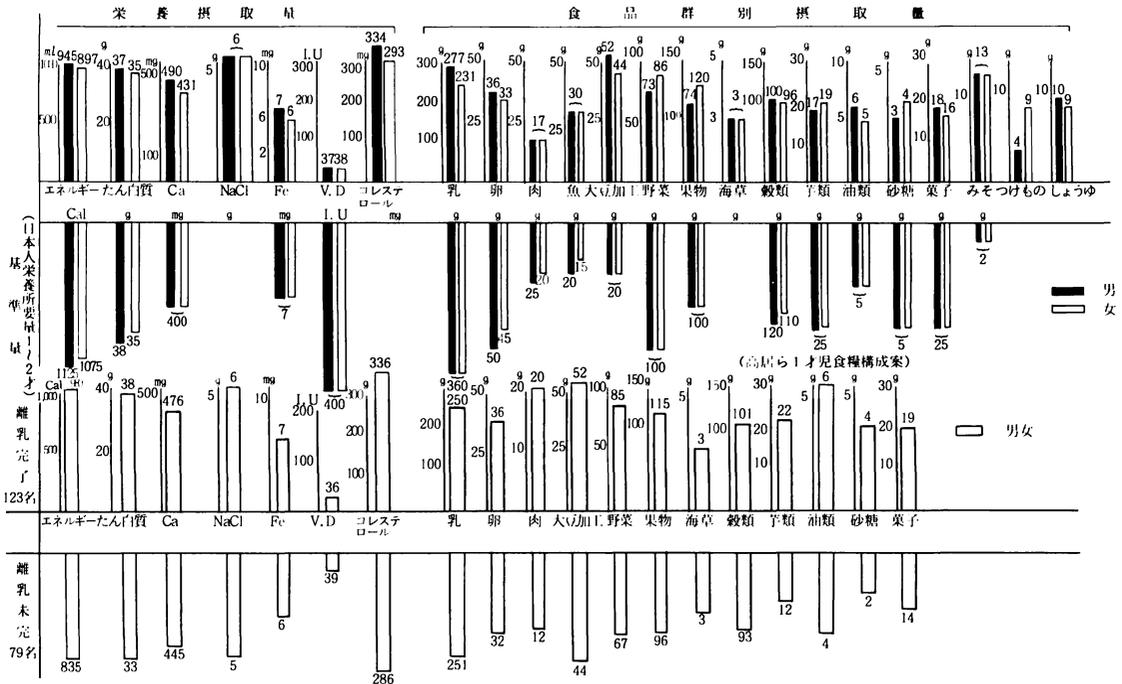


図 1. 1才6カ月児栄養摂取状況 202名(男, 112名 女, 90名) 昭53

類, 野菜, 穀類, 芋類, 砂糖, 菓子類はやや低値を示した。食塩に関するみそが13g, 漬物5~9g, 醤油9~10gとなっている。離乳完了群と未完了群では, 完了群が, ほとんどの食品群ともやや多い傾向にあるが大差はない。地区別でも栄養素摂取量低値の町村において同様の傾向で, 特に肉類の摂取が少ない。

c 母親の栄養摂取状況

日本人栄養所要量・普通労作・女・20才~39才と比較してみると, たん白質, Fe, ビタミンDは多く, エネルギー, Caがやや低値を示したが, 一応所要量に達しているといえる。

食塩は18gで県内他地域より多い傾向にある。最少量は51gを示した。Na/Kは4.6で児と同様に高い。コレステロールは460mg, 脂質エネルギー比23%である。

食品群別としては, 高居らの食糧構成に比し, 肉類, 大豆製品, 野菜, 果物, 芋類など多く, 反面, 乳類, 卵, 穀類, 特に油脂類が低値を示した。みそは36g, 漬物92g, 醤油25gで, 地区別には, 農山村の西木村の食塩が平均22gと特に高値であり, 栄養素が平均摂取より下回っているのは, 児と同じ地区では, 烏海村, 皆瀬村, 十文字町で, そのほか若美町となっている。母親の食生活が乳幼児の食習慣上に, その影響力の強いことが, 本調査からも伺われる。

Ⅲ. まとめ

秋田県の1才6カ月健診の地域化に関し, パイロット町村2年次の状況をのべた。

1 健診の実施状況(計画, 流れ, 従事者)はその地域の実状に即した方式にはほぼ定着しつつあることが伺われる。

2 健診内容の向上としてのアンケート併用は, 健診方式としては問題なく活用されているが, 相談票とあわせ内容の点でさらに検討の必要がある。

健診部門別のタイムスタディーは, 特別の附加事業を加えない一般の健診の流れとしての実状は今年度ではほぼ概要把握が出来たと思われる。

3 健診後の追跡システムは, 保健所との連携いもあわせ今後の検討が必要であり, 来年度の大きい課題といえる。

4 栄養調査結果から1才6カ月児の問題点としてビタミンDの不足と食塩の過剰摂取(平均6.0g)が指摘されたが, 保健指導の上で十分配慮していかねばならない。

文 献

- 1) 秋田県: 1才6カ月児健康診査の手引き(1978)

2) 1才6カ月児健康診査の手引き, 母子衛生研究会 (1978)
3) 菊地亮也たち: MMR式栄養調査方法と糖尿病検診時の栄養摂取量, 秋田県衛生科学研究所報, No. 18. 213-217 (1974)

4) 厚生省栄養課監修: 昭和50年度改定日本人の栄養所要量と解説, 2, 第1出版 (1975) 5) 高居百合子たち: 性, 労作, 妊婦, 授乳婦別食糧構成の一案 (昭和55年推計), 栄養学雑誌, 33, 203-226 (1975)